

1 1 月次報告

丸山正雄

10月、11月と立て続けにわらしべと関係の深い人から書籍が送付されましたのでご紹介します。

まずは、10月下旬に届いたのは登丸和子さんからです。著書は「日本の社会福祉 ～礎を築いた人びと～ 蟻塚昌克 全国社会福祉協議会」、義父の登丸福寿さんが1958年（昭和33年）群馬県財団法人はるな郷を設立し、全国に先駆けて知的障がい者のコロニーをたちあげました。昭和35年に制定された知的障害者福祉法（当時は精神薄弱者福祉法）とほぼ軌を一にしながら入所施設の必要性と職業訓練のための施設づくり整備に奔走されたといえます。知的障がい者福祉の世界ではつとに著名な方です。既にわらしべ園と第二わらしべ園では購入済みですので是非読んでいただきたいと思います。



なお、登丸和子さんは第二わらしべ園（1996年11月開所）が開所することが決まってから枚方市福祉部を通じてわらしべ会に入職し（それまでのわらしべは肢体不自由児者の療育しか関わっていなかったため）、長く第二わらしべ園副施設長として入所施設の基礎を整備してくださいました。その後、2002年の枚方市指定管理社会就労施設セルフわらしべ開所につき施設長としてお勤めくださいました。第二わらしべ園開設当初よりしばらくの間は神奈川県弘済学園で強度行動障害の定期的な研修を手配してくださいました。くずは親の会が立ち上げたくずは作業所にも長く関わり、枚方市の知的障がい児者の動向に詳しく知っていました。現在もわらしべ会評議員として関わってくれています。また、ご主人の登丸寿一さんは天理大学社会福祉学部教授をお勤めになっていました。

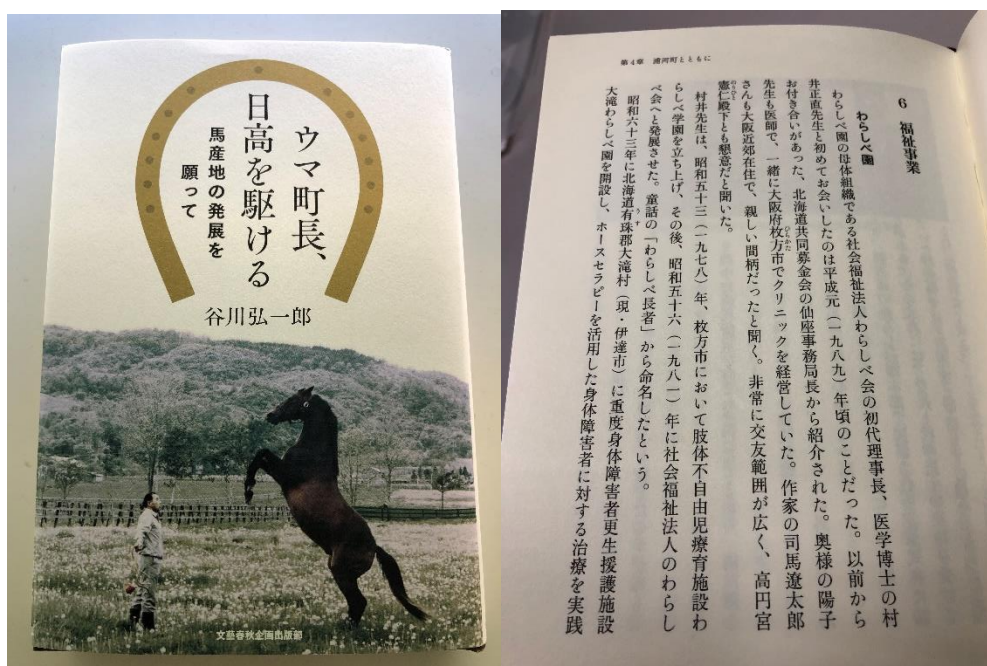
次にご紹介するのは北海道浦河町の元町長を長らく務めた谷川弘一郎さんです。2010年10月に他界した村井先生の通夜・告別式にも町を代表（既に町長は引退してしまし

た) して弔問くださいました。三冠馬シンザンの繋養牧場主としてつとに有名です。

谷川弘一郎 (昭和 10 年生まれ) さんについて

今月半ばに前の北海道浦河町長をなさった谷川弘一郎さん (在任期間: 平成元年 11 月 ~ 平成 21 年 12 月) より谷川さんの半生をまとめられた書籍 (ウマ町長、日高を駆ける ~ 馬産地の発展を願って: 文藝春秋企画出版部) が送られてきました。事前に電話にて谷川牧場の職員の方からお連絡を頂いておりましたから驚きはありませんでした。ページをめくると、P95~P101 にかけて村井正直先生との出会いや浦河わらしべ園開設までの経緯、乗馬療育に対する熱い思いなどが丁寧に綴られております。

谷川家は、明治の半ばに開拓民として福井県大野市から浦河町に入り、馬の生産牧場として現在に至った経緯や馬の生産者から初めて町長になったこと、町長になって力を入れてきた政策 (斜陽化する地方競馬の立て直し) や取り組みについても丁寧に書かれています。私も浦河で 3 年半お世話になったので役場の方や JRA の方などの名前を大変懐かしい思いで読ませていただきました。200P にも及ぶボリュームですが、限界集落地域を多数抱える日高地方で、必死に生きる過疎の苦悩が痛いほど理解できます。図書館に置きますので是非ご一読ください。(わらしべ会 2F 図書館にあります)



以上